

7孔型アルトリコーダー イギリス式(309AF-E) 取り扱い説明書

このリコーダーは片手で2つ以上、両手合わせて6つ以上の音孔を操作できれば演奏することができます。

《使い方》

自由に動く手を上にし、不自由な手を下にして使います。上の手で裏側1つと表側2~3つ、下の手で2~3つ(押さえやすい位置に回転させて)合計6つ(音孔番号0~5まで)または7つ(音孔番号0~6まで)の音孔を操作します。
6つ操作の時は最低音が「ソ」、7つ操作の時は最低音が「ファ」になります。

《組み立て方》

中部管(図1の管体①~④まで)は手に合わせて音孔を押さえやすい位置に回転させて使います。適正な音孔の位置を見つけるために、初めのうちはビニールテープなどで仮止めをして使うことをお勧めします。
位置が決定したら付属の接着剤で接着します。

《接着時の注意》

突起(図2)を目印にしてクレヨンなどでマーキングして位置を合わせて下さい。接着剤をつけた後(図3)は、まっすぐに差し込んで下さい。瞬時に固定されますので、塗布後は素早く作業して下さい。接着の途中で回転させようとしても動きません。

※ 頭部管と足部管は接着しないで下さい。

《指使い》

裏面の「運指表」をご覧ください。(出せない音は省かれています)

《アルト改造リコーダー309AFシリーズのご紹介》

- ◇ 7孔型イギリス式 (309AF-E)... このモデル
片手で2つ以上、両手合わせて6つ以上の音孔を操作できる人に適しています。
左右共用です。
- ◇ 7孔型ドイツ式 右手用 (309AF-GR)
両手合わせて5つの音孔が操作でき、右手優先の人に適しています。(片手のみでは使用できません)
- ◇ 7孔型ドイツ式 左手用 (309AF-GL)
両手合わせて5つの音孔が使用でき、左手優先の人に適しています。(片手のみでは使用できません)

(親指操作のできない方には別途、一般用のアルトリコーダーからの改造が適しています)

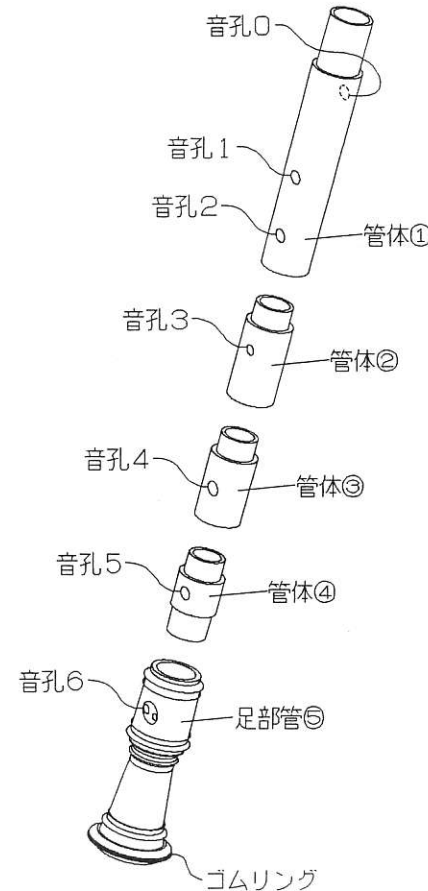


図1

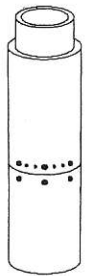


図2

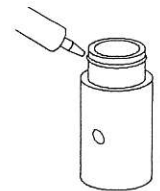


図3 (接着剤の付け方)

